

## 生物多様性国家戦略2010の概要

## 前文

## 第1部 戦略

いのちと暮らしを支える  
生物多様性

- ・すべての生命の存立基盤
- ・将来を含む有用な価値
- ・豊かな文化の根源
- ・暮らしの安全性

## 課題：4つの危機

- ・第1の危機 人間活動や開発による危機
- ・第2の危機 里地里山など人間活動の縮小による危機
- ・第3の危機 人間により持ち込まれたものによる危機
- ・地球温暖化による危機

## 目 標

中長期目標（2050年）  
生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとする

短期目標（2020年）  
生物多様性の損失を止めるために、2020年までに、  
・生物多様性の状況の分析・把握、保全活動の拡大  
・生物多様性を減少させない方法の構築、持続可能な利用  
・社会経済活動への組み込み（生物多様性の主流化）

100年先を見据えた  
ランドデザイン

国土の特性に応じた  
ランドデザイン

奥山自然地域  
里地里山・田園地域  
都市地域、河川・湿原地域  
沿岸域、海洋域、島嶼地域

## 4つの基本戦略

生物多様性を社会に浸透させる  
生物多様性の社会への浸透  
地域レベルの取組の促進・支援

地域における人と自然の関係を再構築する  
希少野生動植物の保護施策の充実  
自然共生・循環型・低炭素社会の統合的な  
取組の推進

森・里・川・海のつながりを確保する  
海洋の保全・再生の強化

地球規模の視野を持って行動する  
COP10の成功 SATOYAMAイニシアティブの推進  
科学的な基盤の強化 途上国の支援  
経済的視点の導入 科学と政策の接点の強化

## 第2部 行動計画（約720の具体的施策 35の数値目標）

## 国土空間的施策

広域連携施策		地域空間施策	
生態系ネットワーク	自然再生	森林	田園地域・里地里山 都市
重要地域の保全	農林水産業	河川・湿原など	沿岸・海洋

## 横断的・基盤的施策

野生生物の保護と管理	情報整備・技術開発	遺伝資源などの持続可能な利用
地球温暖化に対する取組	普及と実践	
循環型社会、低炭素社会の形成に向けた取組	国際的取組	環境影響評価など